


# ふくおかAL通信

## ～県立学校の教室から～

第36号  
(R2.10.8)

福岡県立学校  
新たな学び  
プロジェクト

 福岡県立武蔵台高等学校

創立40周年「明るく、楽しく、いきいきと。」をモットーに！

福岡県立武蔵台高等学校は、昨年創立40周年を迎えた全日制課程の普通科高校です。みんなが生き活きと輝ける高校を目指して、創立40周年に「明るく、楽しく、いきいきと。」というモットーが決められました。当校は、創立30周年の平成21年8月に、九州の小・中・高校の中で初めてユネスコスクールに加盟し、以来「国際理解教育」と「地域歴史文化教育」を柱として活動しています。特徴のある学校独自の活動には、「サマースクール」（小学校への学習支援）、「ユネスコ講演会」そして開校以来の伝統行事「天拝山登山」があります。



(写真1) ユネスコスクール

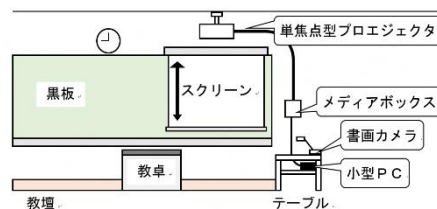
### 1 AL型授業を支援するICT環境整備

ICT担当チームを中心にICT環境の整備を計画的に推し進め、AL型授業を支える環境を実現しています。

#### (1) 全教室に同じICT機器を設置

全教室に共通のICT機器が整備されています。毎時間の授業でICTを活用する上で、同じ機器があることは、とて

も重要です。機器の基本構成は、天井吊下げ式単焦点型プロジェクタ、吊下げ型スクリーン、小型PC、書画カメラ（実物投影機）です（図1、写真2）。プロジェクタは電子黒板機能を持ち、双方向型展開のAL型授業を支援します。スクリーンは上部に収納できるため、黒板全面を使った板書を中心とする授業展開も可能で、多様な授業形態の中から最適なものを選ぶことができます。特に、書画カメラ（写真3）の活用は、ICT導入の敷居を下げました。提示資料を生徒が注視することで発問しやすくなり（写真2）、それを受けて生徒の議論が促され、授業がAL型になった結果、ICT活用、AL導入を前提に授業が再設計されることとなり、授業改善につながりました。全教室にICT機器を整備すると、アップデートや設定変更等の機器管理が課題となります。しかしながら、ICT担当チームはソフトウェアで職員室から機器を遠隔集中管理し、機器管理の効率化と機器の安定した稼働を実現し、ICTを活用した毎日の授業を支えています（写真4）。



(図1) 教室のICT機器設置イメージ

#### (2) ICT活用の普及はボトムアップのOJTで

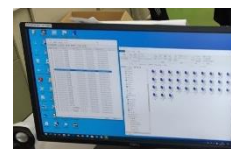
利用マニュアル等が整備されていても、慣れないソフトウェアを使ったICT教材の作成には負荷がかかります。これに対して、校内ではOJTが機能してICT活用の普及を後押ししています。特に、今回の新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校期間中には、教材作成のノウハウを学び合う相互交流や校内ネットワークを介した教材の共有が進み、教員の教材づくりのスキルアップとICT教材の蓄積が図られました。トップダウンで推し進められる形ではなく、新たな環境に対応した授業の形として、ICT活用教材の必要性が高まり、それを受けて教材作成のノウハウを教員が相互に学び合うというボトムアップ型のOJTが生まれ、授業再開に向けた準備が進められていきました。各教科ではICT教材の共有が図られており、共有によって教材の活用が進めば、それをもとに各教科の授業改善へとつながることが期待できます。自然発生的に組織されるOJTは、教員の良好な関係を育む学校文化があってはじめて生まれるものだと思います。



(写真2) 授業風景



(写真3) 書画カメラ



(写真4) 機器管理画面

### (3) 武蔵台チャンネル ～独自の映像配信システム～

武蔵台高校には各教室にハイビジョンレベルの映像を届けられる映像配信システム「武蔵台チャンネル」があります(写真5)。式典や生徒総会、講演会などの映像を全教室に配信することができ、新型コロナウイルス感染防止対策を図りながら学校行事を行うことができます。会場への移動時間が不要で、授業同様に映像を注視する効果は生徒の主体的参加を促すようです。オンライン授業導入に当たっては、「はじめてのオンライン授業」という独自の教員向け冊子を作成するなど、ICT活用を進めようとするICT担当チームの熱意と細やかな気配りを感じます。



(写真5) 映像配信機器

## 2 「総合的な探究の時間」の取組 ～課題解決型学習プログラム～

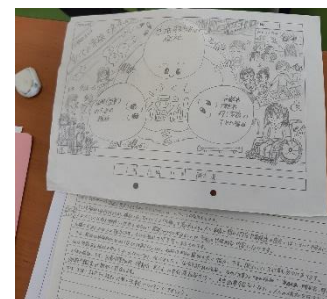
総合的な探究の時間では、SDGsをテーマとする課題解決型学習プログラムを実施しています。

### (1) 課題研究で育成する具体的生徒像を示し、各活動の目的を明確にする

総合的な探究の時間では「協調して問題を解決することができる」「自分の意見を述べることができる」「プレゼンテーション能力を身に付けている」という生徒像を設定し、育てたい力として問題把握能力、情報検索・分析能力、論理的思考力、プレゼンテーション能力を上げ、課題研究を中心としたプログラムを編成しています。具体的目標が示されることで、どのような力を育成すればよいかを教員が共有し、協働して効果的な指導を行うことができます。生徒の立場においても、折に触れて教員が目標を示すことで、各活動の意味を理解し、自分の成長を図るとともに、見通しを立てて活動を行うことができます。

### (2) ユネスコスクールとして、SDGs17の目標からテーマを選択

課題研究は5人1組の班で行います。班の研究テーマはユネスコスクールの特徴を生かし、国連の「SDGs17の目標」に沿って設定します。研究テーマは班協議で決定し、続いて班内で研究テーマを細分化した小テーマを決め、それに基づいて個人活動をします。個人活動の結果を班で発表し(写真6)、発表内容を班でまとめ、複数回の発表・修正の繰り返しで内容を洗練させ完成させます。年度末にはクラス代表による学年発表の機会が用意されています。以上が1年間の活動で、2年次は1年次の経験を活かし更に深く学んでいきます。



(写真6) 投影用と読み上げ用資料

### (3) 整備された生徒向け・教員向け資料 ～活動を支える制度設計～

総合的な探究の時間は、総探の「特命チーム」が中心に計画しています。「課題研究マニュアル」が用意され「課題研究とは」「課題研究でよく使われる用語」「課題研究のステップ」「課題研究の特徴」



(写真7) 生徒の資料を投影・共有

「気をつけるべきポイント」「課題研究で身に付く力・身に付けるべき力」「研究倫理に関して」「スマートフォン・パソコン室・他の施設の利用規定(※BYODの活用に関する言及)」「最後に(協働的な学びに言及)」の項目が設けられています。マニュアルには、課題研究の手順や必要となる心構え、培われる資質・能力が示され、活動の全体像が俯瞰できることから、課題研究の意義を理解し、見通しを立てて取り組むことにつながっています。工夫された活動記録用紙、ワークシート等の資料も準備されており、ICTを活用したAL型の活動を支えています(写真6、7)。

### (4) 総合的な探究の時間の記録を生かす ～学習ポートフォリオ～

生徒は、各時間の「総合的な探究の時間の記録」をワークシート等と共に保存します。この記録は学習ポートフォリオとなっており、生徒が記録を参照して以降の見通しを立てたり、自身の学習活動を振り返ることができ、3年次には、キャリア設計に関わる資料として活用することもできます。教員側からは、生徒の資質・能力の育成状況に関わる情報が得られ、計画の修正、再設計をするのに役立ちます。SDGsからのテーマの選定は類似テーマを扱うこととなりますが、ポートフォリオの活用で差別化が図られ、年ごとにより深く多様な研究内容になっていくと期待できます。

## 3 今後の課題

多くの実践を生かし、教科特性に合わせたICT活用の方法や学習効果の検証、新型コロナウイルス感染症拡大状況を想定した授業設計、教育活動を支えるICT環境整備を引き続き進めています。課題研究を含めた様々な活動や職員会議等の情報共有の機会が制限され、当初予定から大幅に変更する必要がある中、学校が一体となって課題解決に向け取り組んでいます。